



11 ポプラ之図 中川八郎

明治四十四年（一九一〇） 油彩・カンヴァス
一一七・二×八〇・七

中川八郎は国内外を問わず、頻繁に写生旅行に出かけ、生涯を通して風景画を数多く描いた画家である。明治三十年以降、洋画を学ぶ画家が海外へ行く例が格段に増え、中川も明治三十二年に吉田博とともにアメリカ・デトロイトへ渡った。そこで自作の水彩画を売って稼いだ資金をもとに、さらに欧州へも渡るといふ非常に自由かつ大胆な旅であった。

本図の画題となったポプラは、当時としては日本ではまだ見かけることの少ない樹木であったことを考えると、幾度もアメリカ、ヨーロッパを旅した中川が、旅先で目にした風景を描いた可能性が高い。この時期、次々と海外へ渡った中川や吉田博ら若手の画家達にとつて、初めて触れる海外の景色や風俗は、大きな刺激となったのである。本図は、明治四十四年の第五回文展に「造船場」「高原の花」とともに出品され、宮内省買上となった。中川は文展の第一回から連続して受賞し、この第五回からは新任の審査員に加わっている。

明治三十四年の中川と吉田博の帰国に刺激される形で、明治美術会は組織改革がなされ、新たに太平洋画会が結成された。印象派を意識し外光派と呼ばれた白馬会に対して、旧派・脂派やにはとされた明治美術会の後を継ぐ太平洋画会であったが、本図の直立したポプラの幹から生い茂る葉のザワザワとしたタッチや、それに呼応するような雲の奔放な筆致からは、中川の旧派の流れに納まらない柔軟な画風がうかがえる。画面右下のサインは「H.NaKaGaWa / 1911」。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections